

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	”だって”に託された感情のときほぐしとその感覚 <49年度本会公開授業記録>
Auther(s)	飯住, 良夫
Citation	児童の言語生態研究 , 7 : 38 - 44
Issue Date	1975-05-24
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045081">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045081</a>
Right	
Relation	

# 授業レポート(その二) 49年度本会公開授業記録

## “だって”に託された感情のときほぐしとその自覚

横浜市立青谷小学校六年四組※昭和四十九年七月五日実施

飯住良夫

### 一、資料

本紙第三号「国語の力とは何か」を考慮するための  
研究調査報告に使用した「小さい白いにわとり」  
(光村一年)の資料Iにもとづいて、子どもたちの  
実態調査をしたもの。特に、VI(問7)の部分  
を中心に、次の事例を本時学習の教材とした。

A

に「あなたたちは、私にさんさん働かせておいて  
食べようなんて……。どうしてあなたたちは、  
食べるために、働こうとしなかったんですか」

B

ぶ「だって、めんどろだったんだもん」  
ね「めんどくさいもん。いろいろ汗をたらして働  
くだなんて」  
い「働くのがめんどろだったんだもん」  
に「なんにもやらないで、いんちぎ」  
ぶ「そんなことないよ」  
ね「ちゃんと、やったよ」  
い「やったよ」

D

に「あなたたちは、何も仕事をしなかったからだ  
め」  
ぶ「あれとこれとは、話がちがう」  
ね「あれとこれとは、話がちがう」  
い「あれとこれとは、話がちがう」  
に「あなたがたには、あげません」  
ぶ「そんなのないよ」  
ね「そうだそうだ」  
い「なんでくれないのよ」

E  
「えん」

に「あげたくないけど、みんなにパンをわけてあげるわ」

ぶ「ふん、もういらないよ」

ね「ぼく、もういらない」

い「ぼく、もううよ」

F

に「おいしかった」

ぶ「べつに」

ね「べつに」

い「なんとも」

(注) に↓にわとり・ぶ↓ぶた・ね↓ねこ・い↓いぬ)

## 二、授業記録

(学習開始のあいさつ)

T きょう、学習することは、みんながふだんよく使っている「だって」という気持ちについて考えてもらいます。この前にみんなが書いたものの中から、何人かの人のを選んで、それを材料にして考えてもらいます。

それでは、一番目のを出します。(Aを提示)最後の部分の、にわとりは「い」、ぶたは「い」、ねこは「い」、いぬは「い」というところです。

では、これを作った安藤さんに、どういう考えで書いたのか説明してもらいます。

C そーと。最初のにわとりのことばについてですけども、この場合、ぶたもねこもいぬも自分たちがパンを食べたいのに、何も働こうとしないで、ただ自分がつつたっているだけで、何か私たちの身におぼえがあるようなことに思えたから、それがこの場合にあると思ったから、書きました。

それから、三匹の動物は、私たちが、おかあさんや身のまわりの人に何か言われた時、自分がいやなだけで、結果的には自分が使うものなだけで、使うこと以外は全部他の人にやらせたりして、自分のめんどくさいっていう気持ちがあると思うから。

T ねこもいぬも同じ？

C (うなずく)

T お話がずうっと続いてきて、安藤さんは、にわとりに「い」(資料参照ー以下資料部分は省略)としやべらせただけど、これは誰に言っているの？

C 三匹の動物たちに。

T こういうふうに言う気持ちってどういう気持ちなんですか。

C この人たちのために自分がさんざん働かされてとかやったのに、他の人たちに食べられたということに、あまりにもしゃくにさわる。

T しゃくにさわるね。

C 少しおこっているような気持ちで、三匹の動物たちにあきれているような気持ち。

T ああ、おこっていて、あきれるような気持ちね。

C だいたい同じなんだけれども、自分たちが働かなかったのに、そういう時にだけやるとするのは、ずうずうしい。

T ずうずうしい。他の人は、どうですか。

C (同感者二三人)

T それでは、次のを考えてみよう。(B提示)

これは、久家君が書いたものです。どういう考えで書いたのか説明して下さい。

C ぼくは、そうじの時など、ちゃんとやってないってさわがれて：：というのを思い出して書いた。

T ちょっと整理するね。きょうは、「だって」という気持ちを考えるんだったね。最初のAには、だっ

てが入っているね。Bにはないね。ほんとにないのだろうか。入るかどうか入れてみよう。

C 「だって、そんなことないよ」

C そうそう。(多数同感の意)

C 「だってちゃんとやったよ」

C 「だって、やったよ」

T そうすると、Bでは、だってを使ってないけど、だってという気持ちは、この中に入っていることになりそうだね。

きょうは、このだってという気持ちを考えてほしいんだよ。

T このにわとりのせりふにはどうだろう。

C 少しことばが変わってくるんだけど、「だって、何もやらないじゃないか」となる。

T じゃ、こというだってという気持ちについて説明して下さい。

C そーと。にわとりが、「何もやらないでいんちき」って言ったら、三匹の動物たちも、本当はやってないかもしれないけれど、そんなこといわれるのは、何かしゃくだったから、どうせなら言っ

てやれっていうことで、「そんなことないよ」って言った。

T 「どうせなら言っ

てやれ」ね。(ひらきなおりでひろう)

ていたら、はずかしいとか、それもそうだなって思っちゃうからうそをついてもごまかしちゃう。T ごまかしてやろうということだね。

C えーと。だまってるんじゃないかって、いいわけをしていると思う。

T いいわけだね。

C だますだまさないっていうけれど、これはだますつもりで、にわとりが仕事をしている間に、他の仕事をしているということでやりかえしている。

T やりかえしだね。

C さっきのAの中とにているせりふはないかな。

O やっぱ、にわとりの最初のせりふが、三匹の動物たちに少しおこっている。

T にわとりのことばがにているということだね。

C それでは、Oについて考えてみよう。

O この「あれとこれとは話がちがう」には、だっ

が入るかな。

O 「だって、あれとこれとは話がちがう」となる。

T こういうだっという気持ちってどんななんだろうね。

O いいわけというのとにているけれど、三匹の動物たちが、「あれとこれとは話が別だ」って言っているのは、にわとりがおこっていて、その話から三匹の動物たちが何とかして話をずらすようとしている。

T 何からずらすの？

O その話。

T その話というのは？

O やらなかつたじゃないかっていう話。

T 他の人は、どうか。Oは、話をずらすということだけかな？

C 「あれとこれとは話が別だ」ってうまく話をごま

かす。

O にわとりの責めからいいのがれをして、早くこの話からにげたい。

T Dについては、どうかな？

O えーとですね。それは、自分たちがぜんぜんつたわなかった。ぼくは、そう考えて書いたんだけどそれににわとりが食べる権利がないということをつたのに対して、「そんなのないよ」というのと、「そうだそうだ」というのは、にわとりの意見に対して文句があるとかにわとりに対する反発したい気持ちがある。

O 今、気がついたんだけど、Aのとつながるような気がする。

T だっが入るっていうことかな？ これはだっが入るのかな？

O (ざわめき)

O 「だって、そんなのないよ」になる。

O 「だって、なんでくれないのよ」になる。

O ぼくは、まだ意味がはっきりしていないんだけど、入らないんじゃないかと思う。

T ちょっとちがうということなんだね。

O ねこの「そうだそうだ」って言っているのはどうだ。

O それは、ぶたに賛成しているということで、だっ

T というのは入らないと思う。

O これと同じだっということだね。ぶたのせりふには入るんだね。「だってそんなのないよ」とね。

O それでは、これについて考えればいいね。野口君は、反発・文句言いたくて反発したいから言うんだけれど……。

O ぼくは、一回見た時には、「あなたがたにはあげ

ません」というところは、これまでの話とは(前の部分とはの意?)ぜんぜんちがっていて、次の三匹の動物たちのせりふも、今までは、だいたい三匹とも意見が一致していたけれど、これは、ぶたとねこの意見が一致していて、いぬは質問のような意見を出している。ぶたの意見も、ぼくたちが、だっを使う時のことを考えてみると、「だって、そんなのないよ」というなんておかしいし、この場合だったら、だっということばを先につけるとおかしくてことばのつながりもないし、だっっていうと「なんで」というところとか、「そんなのないよ」というところで区切れちゃうような気がして、「そんなのないよ」というところも、だっはつかないと思う。

T 越沢君は、だっということばにこだわっているんだけど、ことばとしてはないけれども、気持ちとしては入るんだっということばを、今までの学習で確かめてきたね。そういうことからするとどうなんだろうね。

O 気持ちとしては入るのかなあ？

T 入るとしたら、今までと同じかな。ちがうかな？

C 反発と同じだと思う。

T どうせならということで同じことだね？

O それでは、次のを考えてみよう。あとで、また、

Dについて考えがでてきたら話し合うことにしよう。

T Eは、どうかな？ これは、だっが入るかな。

O だっっていう気持ちは、入るかな？

C えー。

O ちよっと……。

C ちよっと、入らないなあ……。

T 今までのとは、感じがちがうのかな。今までのとは、どういうふうにちがうのかな。説明してよ。

C 今までののは、いいわけしたり、反発したりして

ただのだけれども、これは、もう、にわとりにそんなことまで言われてもらう気がなくていやな感じで、

いやしい感じがするから、ぶたとねこは今までみ  
いに、今までは、三匹が意見が同じだったんだけ  
れど、そういう場合ばかりではなくて、やっぱりこ  
うい場合もあるんじゃないかな。

T こういう意見が出てきたけれども、どうかな。い  
やしい気持ちだっているけれど、気が何にひっか  
っているんだ？

C えーと。にわとりもあげたくないけれどというの  
で、みんな気を悪くしている。

T 気をわるくしている。

あげたくないけど、あげるといのは、こういう  
気持ちを何て言うのかな？

C ふてくされ。

T ふてくされ!!

C ばかにしている。

T ばかにしている?!

T こういうのにはあてはまることではないのかな？

C ぼくは、あげたくないけど、みんなにパンをあげ  
るわというの、いやいやっていうか、自分の気が  
むかないということで、さっき荒川君がふてくされ  
って言ったのは、このぶたとねこのことで……

C そうそう。(同感の意)

C 野々瀬さんは、いやしいと言ったけれど、いやし  
いということではなくて、自分の気持ちに正直とい  
うことで、それが犬にあってはまっていて、犬が「ぼ  
くもろうよ」って言うのは、自分の気持ちが、はっ  
きり出ている、ぶたとねこのふてくされとちがって  
いるところで、にわとりの気持ちがなんとなくおか

しいなあ。

T 犬のせりふが本心で、ぶたとねこがふてくされだ  
って言うんだね。

C (うなづく)

T あげたくないけどっていうのは、何？ ふてくさ  
れっていうのは、本心を出さないことだって言うん  
だろう。ふてくされるのは、あげたくないけど、と  
いうにわとりの気持ちをみてとって、それにひっか  
かってふてくされるだって、秋山君は言ったね。こ  
の秋山君の意見については、どうだ？

C 同感。

C にわとりは、たぶんいやがらせみたいなのをや  
ったんだと思う。

T いやがらせね。

C それで。あのー。何かね。ぶたやいぬやねこより、  
にわとりが大きくなっちゃって、ぶたやねこは小さ  
くなった気がして、はずかしくて、いやがらせみた  
いなのをやるっていうか、そういうのは、ただ食べ  
てもおいしくないから。

T 大きくなって・小さくなってというのは？

C 大きいというのは、自分の方がえらいというよう  
にしていることで、小さくなるっていうのは、はず  
かしいということ。

T いやがらせというのが出て、大きくなる、小さく  
なるっていうのが出たね。

T こういうのを、「もったいぶる」って言うんだよ。

C 聞いたことがある人はいるかな。

C ー挙手三分のー

T 使ったことある人は？

C ー挙手二三人ー

ー(不明テープレコーダーの都合)

T 他には、この目については、意見がないかな？

C ぼくは、にわとりのせりふは本心だと思う。理由  
は、いやがらせということで、いやがらせを言えば  
食べたくなるだろうということで(せっかく一  
人でだれもつだってくれなかったの一人で食べ  
た方が、そのパンはだれもたくさん食べたいとい  
う気持ちで)いやがらせをすれば、ぶたとねこか  
ねこも、もういらぬとふてくされてしまうと思  
うから。犬は、正直にもろうと言ったけれど、  
ぶたとねこは、いらぬってことわったんだけれど、  
その時、にわとりはそのパンを食べるのは犬だけ  
になるから、しめたと思った。

T しめたということなの？

C ぶたとねこが。

T ぶたとねこが？

C そのせりふを言ったら、自分でもパンを食べるの  
があたりまえだから……(不明)……となるから、  
しめたと思う。

T ふてくされっていうことについては、どうかな。

C これは、ふてくされだけ？

C (沈黙)

T それでは、次のFについて考えよう。これは、今  
までのとはちがうんだなあ。どこがちがうのかな。

C これは食べ終わったところから始まっているみたい  
だな。

T 食べ終わったところから始まったのね。にわとりが  
「おいしかった」と言うと、ぶたは「べつに」、ね  
こも「べつに」、犬は「なんとも」と言うんだけ  
れど、これについては、どうかな？ これを書いた安  
藤さんに説明してもらいます。

C 前のはちがうんだけれど、最初のは、めんどろ

だったということを書いてただけで、それと対照的に書いたんだけど、こっちの場合は、食べたあとの気持ちなんだけど、三匹の動物たちはずうずうしくて、自分が働かなくて、にわとりがせっかくくれたのに、何とも思わないで、ずうずうしいという気持ちを書いた。

T ずうずうしいという気持ちを書いたんだね。

これは、だつてという気持ちに關係があるかな？  
ないかな？

C (沈思黙考)

O ぼくは、初め、關係なさそうだと思ったんだけど、「べつに」という言葉は、いいのがれていうもの入るし、「おいしかった」ってにわとりが言ったんだから、それに反発して少しのいがれていうこともあるから、「なんとも」「べつに」というのはだつてということが、入っていると思う。少し話がちがうんだけど、さっきのAと、このFとを比べてみると、Aは、にわとりが働いている時は、よかつたんだけど、こういうことになる、少しきびしくなつて、Fでは、全くお人好しで、三匹に、ちゃんとわけてやつたりして、簡単に終つてしまふというとおかしいと思う。

T 「おいしかった」というのは、越沢君は、四匹の動物が一緒にパンを食べたんだつてとっているみたいだね。そのようにも受けとれるね。

O よく見てみると、にわとりが、「おいしかった？」って聞いているようにも受けとれるよ。

C うん。そう。

T 「おいしかった？」って聞いているわけね。

C にわとりは、ぜんぜん一口も食べないで。

T 食べないで……。

O 食べる食べるって三匹が言っていたから、今までのところを見るとにわとりが、この表だれがまきまきすかつて聞いても、三匹ともいやだつて言つたからしかたがないから一人でやつたということを見てみると、にわとりが、だれが食べるかつて聞いた時に、三匹は、食べるって言つたわけだから、どうもお人好しな感じが、前のところから受けとれるから、三匹に、パンを全部三つにわけてやつてしまつて、にわとりは、ぜんぜん食べなくて、三匹が食べたあと「おいしかった？」って、聞いているようにみえるよ。

T じゃ、条件を整理しよう。にわとりが、食べている場合と食べていない場合とがあるね。どっちをとるのかな。

O 食べていない場合。

O 食べていない場合。

T 食べているってとる人いるかな？

O A—なし—V

T にわとりが、食べていないとすると、三匹に「おいしかった」と聞いたら、三匹は、「べつに」「べつに」「なんとも」って答えていることになるけれども、こういう三匹の気持ちを説明できる人いるかな？

O なんて言つていいのかわかんないけど、もう自分たちは食べてしまつたんだから、もう用はないっていうふうに思える。

T もう用がないよつていうふうに、適当にあしらっているわけなんだね。

C うん。

T あしらいがあるわけね。

O うん。

O もし、三匹が働くところで、いやだつてがんばつていたんだけど、ここのところで、「ああ、おいしかった」って言つてしまつと、にわとりは少し感謝しているみたいになつてしまつて、自分としては負け腰。みたいになるから、まだ負けたくないから、負けおし。みで、そう言つたと思う。

T いやだ、いやだつてがんばつて反抗してきた。まだ負けたくないから、べつにべつに言つたんだね。

C うん。

O みんなの意見とはちがうんだけど、ほんとうは、三匹は少しおいしかったんだけど、やつぱり、そのままだしよかったつて言つと、自分のプライドというか、三匹は見栄。つぱりで自分の本心を出さないで、プライドにこだわつて、ほんとの心を出さなかつたということだと思ふ。

T プライドにこだわつて言つたわけだね。

O ちよつと、みんなとちがうんだけど、BやCやDやEとかと比べてみると、見栄。つぱりというのではなくて、照れ屋。つて考えたんだけど、照れ屋で、Eは、「そんなことないよ」つて言つたのは、何もやらないということを、少し認めて、少し照れ屋で言つたと思う。Oは、「あれとこれとは話が別だ」

つて言つて、少し話をそらそうとしていて、Fでは「おいしかった」つて聞いたとすれば、「べつに」と言つたのは、いいのがれのようなもので、少し照れて、おいしかったんだけど、今まで、働くのに反抗してきたんだから、少ししゃくにさわるといふのもあるんだけど、照れちゃつて、少し言にくいつていうふうに受けとつたんだだけ。

T 照れくささがあるんだね。

C どういう気持ちで言ったかというのはわからないんだけど、三匹は、越沢君が、言いにくいって言ったところだけは同じ気持ちだと考えて、こんどは、食べてみて、ほんとはおいしいと思ったんだけど、今まで自分たちは何も働かなかったから、ちょっと言いにくいって言うことだと思う。

T 照れくささがあって、こたわっているんだね。

T じゃ、にわとりだけが食べたとしたら、どうなるのかな？

C えーっ。(数人)

C にわとりだけが食べたとしたら、ぶたやねこが、「べつにべつに」って言っているのは、あたりまえだと思う。

C その場合だと、にわとりが食べて「ああ、おいしかった」という感じで、ぶたはやっぱりうらやましくてしょうがないっていうことで「べつに」と言ったので、ねこもそれと同じ気持ちで、「べつに」と言って、犬はうらやましくて「なーんとも」って反抗するとか、べんかいという感じだな。

T 「べつに」っていうのと、「なーんとも」というのと少しちがうと思っているんだね。

C にわとりだけが食べて、「ああ、おいしかった」と言ったとして、ぶたとねこがどう思うかを考えてみると、ぶたとねこは、うらやましくて、にわとりが食べたので、本心をかくすというか、にわとりを無視するということになると思う。

T 今までのと比べて、どこがちがうか、もっと説明できる人いるかな？

C ー△なし▽ー

T それでは、いろんなのが出てきたけれども、ぶだん自分で使っているなと思うのはどれかな。

C ふてくされ。

T どういう時？

C お母さんに仕事を頼まれた時、自分がいやな時にふてくされる。

C いいのがれて、よくしかられている時に、話をそらそうとする時に使う。

T ちょっとまって。先生が、今聞いているのは、だっという時に、今まで出たうちのどの気持ちのだっを使っていいことが多いですか、ということを開いているんだよ。だっでしほって考えて下さい。

C だいたい、だっでしほっていうのは、なんとなく、人が言ったのちがって反抗したい時に使う。

C ほくが使うだっでは、いいわけが多いんだけど、宿題があるって聞かれた時に、いいわけで、ごまかしたりする。

C ほくは、いいわけと反発。反発というのは、身の回りで言うと、だいたいお父さんやお母さんにおこられた時に、さっきのBのぶたの「だっで、そんなことないよ」っていうのと似ているんだけど、何か反抗心があって言いなりになりたくないという気持ちの時に使う。

T なるほど。言いなりになりたくない時ね。

C ほくは、弁解とか、いいわけとか、反発なんだけど、反発の場合だと、お父さんお母さんに自分にとっ、何かいやなことを言われた時に反発するし、弁解だとすると、もし自分がいたずらしたとか、悪いことをやって自分で認めている場合でも、お母さんなんかと言われた時、ほくは、こういうふうにしたとかというふうにいわけしたりする。

C 弁解の場合、弁解が通らないとふてくされる時がある。

T ちょっとまって。学習を整理しよう。今までの意見で、主に、反発・いいわけ・弁解・ふてくされ・反抗(「さからう」)が出たね。これ以外にまだある人は、いせんか。

C ー(なし)ー

T それでは、次に、これらの気持ちがどういうふうに関わり合っているのかを考えてみよう。

C ほくの場合、いいわけと反発がつかうと思う。よくお父さんやお母さんにおこられている時、いいわけをしていてそれが通らないと、今度は、だんだんとさからうようになってきて、それでいいわけと反発がつかうと思う。

C いいわけと弁解と、いいのがれが組める。弁解というのは、話が自分に悪いことで、それを自分にとって良くしようとして弁解することだし、いいわけは自分の調子のいいようにかえるということと、弁解と同じで、いいのがれも、調子の悪い話からそらそうとするから、同じだと思う。反発は、さからうということとだいたいみんなが言っている通りだと思う。

C 私は、反発といやがらせがにているということかもしれないけれど、人に悪口を言われた時に、反発して、その人のいやがらせを消したいというか、そういう考えがあるから、組みあわせられると思う。

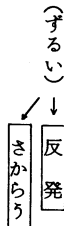
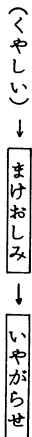
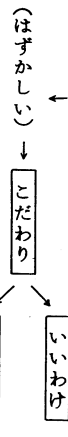
C ふてくされと反発がつかう。たとえば、集団の中で仲間はずれにされていると気持ちが正直でなくなつてふてくされて、集団に反発するというこ

以下 省略

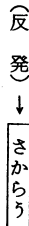
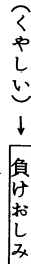
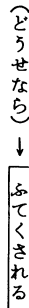
三、授業後の子どもたちが作った  
だ。ってという気持ち (組み合わせ)

1. (N子)

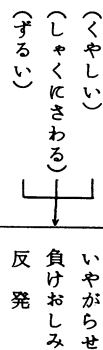
からかい



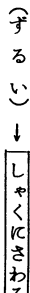
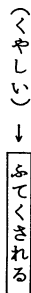
2. (K男)



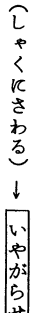
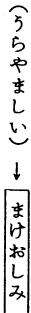
3. (M男)



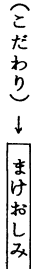
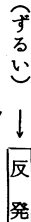
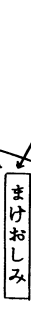
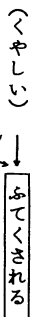
4. (K子)



5. (H子)



6. (A子)



( ) 内は、気持ちだけ。

( ) 内は、気持ちの表われ方・態度。